

第8回 EEC

フィールドワーク談話会(公開)

赤いサルと白いサルをアマゾン浸水林に追って ー熱帯雨林にみる進化理論ー

話題提供 伊沢紘生

(宮城教育大・環境研)

日時：2002年6月20日(木) 13:15～14:30

場所：宮城教育大学2号館 225教室



アマゾンを中心に中・南米を広く覆う熱帯雨林に生息するサル類は、一般に新世界ザルとよばれる。約80種が知られる新世界ザルの中に、ウアカリという仲間があり、そのサルは2種6亜種に分類されている(写真参照)。

かれらはいずれも、雨期の間ずっと水につかる“浸水林”の住人であり、6亜種中4亜種の分布をこの3月に現地調査した。その結果、1987年にアメリカのハーシュコピッツ博士が提出した総合進化論(ネオダーウィニズム)によらないブリーチング仮説を、彼らが見事に実証していることがわかった。

ここでは、アマゾン浸水林の成立過程、ウアカリ属の分布拡大ルートの復元、進化に関するブリーチング仮説などについて概説する。